

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3611610035		
法人名	医療法人 照陽会		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3611610035&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3611610035&amp;SCD=320</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年12月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員は利用者と信頼関係を築き、家族のような雰囲気の中で楽しい生活が送れるよう取り組んでいる。安全で安心な介護を心がけている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

来訪者が気持ちよく来訪できるよう、玄関周りにはプランターに葉牡丹等が植えられている。ホームの中も明るく、清潔な共用空間と職員の明るい笑顔・さりげない態度が見られる。クリスマスのツリーもボランティアの手作りでさりげなく飾られ、家庭的な雰囲気づくりに工夫がなされていた。安心・安全な生活を提供するという理念にそった支援に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念</b> I:3611610035					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を共有して意識づけを行ない利用者へのサービスに反映させていくよう努めている。	言葉かけや態度など、日々のサービスの提供において理念を共有し、ケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小・中学生や民生委員、ボランティアの方と、運動会や文化祭、お祭り、買い物などを通じて交流している。	地元の少年野球チームや隣接事業所、小・中学生や民生委員、ボランティアの方と運動会や文化祭を通じて積極的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている方には、認知症への理解をしてもらう機会はあるが、地域の人に向けて活かすことはまだできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部の方や家族に参加していただき、行事報告や意見交換を行なっている。会議での意見を参考に事業所内で検討し、サービス向上に向けて努力して改善につなげている。	運営推進会議では、行事報告や意見交換が行われ、出された意見を勉強会や講座などで話し合い、サービス向上に活かす取り組みができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談にのってもらうなどしている。	事業所の取り組みや現状を伝えるとともに、相談にのってもらえるよう連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の研修を受け、身体拘束のないケアを目指しているが、利用者の状態によってやむを得ず行なう場合(つなぎパジャマ・手袋・ベット柵)がある。その場合には家族に説明し、同意を得て同意書を作成している。	全職員が研修を受け、身体拘束は全て廃止している。昼間は玄関には施錠をせず、安全に過ごせる工夫が重ねられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	関連事業所と合同で研修会を行なったり、市が開催している虐待防止の研修に参加したりして、高齢者虐待防止関連法に関する理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行ない、職員の理解が深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のサービス及びケアに関する考え方や取り組み、退居基準を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行ない、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、その時々を利用者の不安や意見を話し合い、運営に反映するよう努めている。玄関には意見箱を設置している。	家族の来訪時や運営推進会議などで、気軽に意見が出しやすい雰囲気づくりに留意し、出された意見は運営に反映されるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、職員の声に耳を傾けて話し合いの機会を持ち、運営に反映するようになっている。	ミーティングや勉強会で職員の声に耳を傾け、運営に反映されるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう努め、資格取得に向けて対応している。疲労やストレスに気を配り、親睦の場や気分転換が図れる機会をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、関連事業所内で行われる研修に交代で参加している。研修内容はカンファレンスで発表し、記録は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設実習の研修を受け入れたり、他事業所の職員と交流を持つことにより気付きを深め、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時には本人の思いに耳を傾け、意向を確認しながら安心していただけるよう信頼関係を築き、必要なサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には家族の立場に立って思いを聴き、不安が解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やむを得ず急にサービスを開始するようになった場合には、それまで関わっていた方々に面会に来ていただき、安心感を持ってもらえるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、日ごろから利用者へ教えてもらう場面が多く持てるよう声かけに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には本人の様子や職員の対応などを伝え、本人を支えていくための信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に住む馴染みの友人と継続的な交流が持てるよう働きかけたり、来訪してもらえよう支援したりしている。	今までの馴染みの友達と継続的な交流が持てるよう電話や来訪を働きかけ、関係が途切れないよう支援している。また、元気になって退居された方も地域住民として来訪していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり相談にのったりして、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりを行い、職員がその調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、地域の住人として遊びに来てくれるなど継続的な付き合いができるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でコミュニケーションを図ることで本人の意向の把握に努めている。言葉や表情などから思いを察し、それとなく確認している。	声や動作、しぐさなど日々の暮らしの中から、本人の意向の把握に努めている。困難な場合は、家族の方からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞いたり、家族や知人などの面会時に話を聞いたりすることを通じて把握できるように努めている。職員間で個人のケアに活かせるよう努力し、プライバシーへの配慮も忘れないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その方ができることに注目し、全体像の把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の視点にたって、その人らしく暮らせるように要望を聞き、職員間で話し合い介護計画の作成に活かすようにしている。	本人や家族の視点に立ち、日頃の関わりの中で要望を聞き、職員間で話し合い、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分摂取量、排泄、身体状況、日々の暮らしの様子、本人の言葉や状況変化を記録し、職員間で確認している。また個別記録をもとにして、介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて、できるだけ本人や家族の要望に応えられるような体制づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安心して地域での暮らしを続けられるよう民生委員や消防、地元の駐在所の方々との交流を大切にしながら協力をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に母体病院からの医療が受けられることを説明している。また、本人や家族の希望に応じた医療機関での受診の支援を行っている。	本人や家族の希望に応じた医療機関への受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院と24時間連絡し合える体制を確保し、日常生活の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院に入院した場合にはできているが、他医療機関への入院となった場合には、入・退院時の情報交換のみとなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしながら家族と話し合い、母体病院と連携を図って対応している。また、看取り介護同意書を作成している。	重度化した場合や終末期のあり方について、方針の統一がされており、本人の気持ちを大切にしながら母体病院と連携を図って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の勉強会を行っている。また、母体病院とすぐ連絡をとれる体制も確保している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、母体法人と合同で消防署員立会いのもと避難訓練を行っている。	年2回、母体病院と合同で消防署や電気関係の方と避難訓練を行っている。また、水や米、ラーメンなどの非常食も備蓄されている。	事業所だけの訓練でなく、地域住民の参加や協力も得られるよう取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、人前であからさまに介護せず、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないようにさりげない言葉かけや対応に配慮したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思表示が困難な方には表情を読み取り、常に本人に決めてもらい納得してもらえるようにして本人の意思を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、本人の希望にそって買い物や散歩を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の意思で決めていただき、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。また地域の馴染みの美容師や理容師が来訪してくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の流れは職員が行っている。また利用者一人ひとりの健康状態や咀嚼・嚥下力に合わせた食事形態としている。引き膳をできる方には手伝ってもらったりしている。	食事が楽しみとなるよう職員と利用者が同じテーブルで話しながら一緒に食事し、おやつも手伝ってもらって好みのものを作るなど食事への関心を高める工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は、管理栄養士に配慮してもらっている。食事や水分摂取量は毎日記録し、職員間で情報を共有している。常に見守りを行い、声かけを行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行ない口腔ケアに取り組んでいる。就寝前は義歯の洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄チェックを行って職員間で共有し、できるだけトイレで排泄できるように努めている。	排泄チェック表を使用し、できるだけトイレでの排泄など排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用している方には、状態に合わせて頻度を調整しながら服用してもらっている。また、本人の希望にそってテレビ体操を行うなど適度な運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	羞恥心や恐怖感、負担感に配慮しながら、利用者の希望に合わせて入浴していただいている。入浴が難しい方には、清拭・足浴・洗髪をし、気持ちよく過ごしていただけるようにしている。	羞恥心や恐怖感、負担感に配慮しながら、利用者の希望に合わせた入浴を支援している。入浴が難しい方には、清拭・足浴・洗髪をし、気持ちよく過ごしていただけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努め、一人ひとりの体調や表情を見ながらゆっくり休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の保管ケースを用意して職員が内容を把握し、服薬管理を行っている。身体状況の変化があった場合は、母体病院へ連絡を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、本人の希望に応じて買い物や散歩等を取り入れている。また、畑で収穫した野菜や果実を簡単に料理し、試食会を行なったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元の祭りや春の花見、隣町のチューリップや蘭を見に行くなど、気分転換できる支援を行なっている。また、買い物なども本人の希望に応じて適宜、行えるようにしている。	地元の祭りや春の花見、隣町のチューリップや蘭を見に行くなど、気分転換できる支援を行なっている。また、買い物なども本人の希望に応じて適宜、行えるようにしている。戸外に出かけられるよう押し車を持ち込む利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	パン屋さんが訪問販売に来てくれているため、家族の協力を得て少額のお金を持っていただき、自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚の方に電話をかけられるよう支援している。また、年賀状など書いてもらえるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場に適したものとなるように努めている。その時々々の写真や季節の花、季節に合わせたセタやクリスマス飾りなど、工夫している。	明るい共用空間には、季節の花や手作りのクリスマス飾りなどがさりげなく工夫して置かれている。茶碗を洗う音・ご飯の炊ける匂いなど生活感が感じられる空間づくりに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファとテーブルを配置している。一人で過ごしたり 仲のよい利用者同士でくつろいだりできるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を持ち込んでいただき、本人の生活の場の延長と考えてもらえるよう対応している。	居室には使い慣れた物を持ち込み、本人の生活の場の延長と考えてもらえるよう対応している。散歩の際の押し車を持ち込む利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレに手すりを設置している。利用者の手が届く場所にホームのアルバムを配置している。テーブルの高さなどにも配慮している。		